



社団法人 吹田青年会議所

創立15周年
記念誌



The Creed of Jaycees International

We Believe:

- That faith in God gives meaning and purpose to human life;
- That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
- That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
- That government should be of laws rather than of men;
- That earth's great treasure lies in human personality; and
- That service to humanity is the best work of life.

JCI宣言文

理性と法による社会の秩序を確立し、
個人の創意と公正な競争を通じて、
経済の発展を実現し、
隣人の幸せを願う者が正しく報われる
民主主義社会の達成を誓い、
民族の気概を結集して日本の平和と
独立を守り、
人間性への信頼こそすべての国を結ぶ
きずなであることを確信する。

綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇氣と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

— 目 次 —

入会認承証	1
式典式次第	2
理事長あいさつ	3
祝 辞	4
実行委員長お礼のことば	7
15年のあゆみ	8
創立15周年記念事業	15
鼎談…〈教育について〉	19
「我が町吹田」の都市づくり	23
会員名簿	25
編集後記	30



入会認承証

第四三六号

吹田青年会議所

貴青年会議所を日本青年
会議所正会員として入会を
認承致します

一
昭和二十八年八月二十二日

社団法人日本青年会議所

会頭 米原正博



創立15周年記念式典式次第

1. 開会の辞
2. 国歌斉唱
3. JCソング斉唱
4. JCフレード朗読
5. JC宣言文朗読並びに綱領唱和
6. 物故会員追悼
7. 理事長挨拶
8. 来賓紹介
9. 来賓祝辞
10. 祝電披露
11. 15年の歩み
12. 記念事業発表並びに記念品贈呈
13. 感謝状並びに記念品贈呈(スポンサーJC)
14. 来訪JC紹介
15. 歴代理事長紹介
16. OB紹介
17. 閉会の辞

ご挨拶



(社)吹田青年会議所
理事長 安達 昌秀

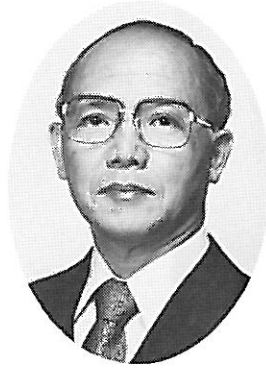
(社)吹田青年会議所は、1970年に千里丘陵において“人類の進歩と調和”を謳った万国博覧会が開催された記念すべき年に、箕面青年会議所の御尽力により創立されました。その吹田青年会議所も、おかげをもちまして本年創立15周年を迎えることができました。先輩諸兄の情熱と御努力、各地青年会議所同志の御友情、そして何にも増して地元市民の皆様ならびに関係団体、関係各位の御理解と御指導により、吹田青年会議所が今日あり得ますことを深く感謝致す次第です。

創立以来15年、修練、奉仕、友情を信条とし、JC宣言文、綱領を基にして先輩の皆様と現会員とが営々と努力し、明かるく豊かな地域社会の実現を目指して、各種の運動、事業を展開してまいりました。その間には、経済情勢も高度成長から低成長の時代へと変わり、物質においては一応の充足をみて、心の豊かさを求める時代に移ってまいりました。加えて社会は緊迫した国際情勢の影響や、急速な情報化社会への移行等で増々複雑さを増しております。

そうした社会の変革に対応して、青年会議所運動も新たな社会開発を目指して取り組まねばならないと思います。今後、次なる時代に向っての指針を見出し、今までの運動から得た知識や体験を生かし、英知と勇気と情熱を結集して地域社会のために努力したいと考えております。今後共、皆様方の絶大なる御支援、御指導をお願い申し上げます。



お祝いのことば
吹田市長
榎原 一夫



創立15周年に寄せて
大阪府知事
岸 昌

(社)吹田青年会議所、創立15周年を心よりお慶び申し上げます。

貴会議所は、昭和45年世紀の祭典、万国博覧会開催と言う記念すべき年に創立され爾来、奉仕・修練・友情の三信条のもと、常に時代を先取りした活動を展開され、市民に新風と活力をなげかけつつ刻まれたその年輪と足跡は正に燦然と輝やいており、これひとえに歴代理事長はじめ会員各位のご努力の賜ものであると存じ心より敬意を表する次第でございます。

本市は21世紀をめざす将来展望の総合計画におきまして“平和”と“健康”を基軸とする“健康文化都市”づくりをめざし行政各般にわたり、その施策の推進を図ってまいっております。

どうか貴青年会議所におかれましては、この15周年を基盤として、今後ますます御発展されますことを祈念申し上げますとともに、本市政の推進に一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたしましてお祝いの言葉といたします。

社団法人吹田青年会議所の創立15周年を心からお祝い申し上げます。

貴青年会議所は、1970年、万国博覧会が開催された記念すべき年に創立されまして以来15年の永きにわたり、たゆまぬ活動を展開され年々隆盛の一途を歩んでおられることは誠に同慶の至りであります。

その間、青少年の教育問題をはじめ各種のボランティア活動を繰り広げられ、地域社会の繁栄と住民福祉の増進に並々ならぬご尽力をいただき、改めて敬意と感謝の意を表する次第であります。更に、今年は創立15周年に当たり、“幸福への挑戦—豊かな心と生きがい求めて”をスローガンに、幾多の有意義な記念事業を執行されたと伺っています。

今や、物の豊かな社会から21世紀に向けて心の成熟社会へ移行しつつありますとき、会員の皆様の活気あふれる地域活動は、明るく豊かな社会を築く上で、大変心強く思っております。

終わりに、(社)吹田青年会議所の限りないご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



お祝いのことば
吹田商工会議所
会頭 中川 義一

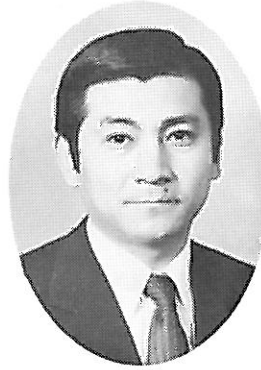
(社)吹田青年会議所の創立15周年を、心からお慶び申し上げます。

みなさんは、この15年間一貫して、青年としての英知と勇気と情熱をもって、明るく住みよい豊かな地域社会の実現を目指して、各種の運動を展開してこられました。

みなさんのこの運動は、市民の大きな共感を呼び、高い評価を受けています。

しかし、みなさんがやるべきこと、みなさんに期待されていることは、なお山積しております。

どうかこの意義深い15周年を一つの節目として、新しい飛躍への第一歩を力強く踏み出され、本年度のスローガンである“幸福への挑戦”目指して、さらにご活躍されんことを祈念いたします。



お祝いのことば
(社)日本青年会議所
会頭 斉藤 斗志二

社団法人吹田青年会議所が創立15周年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

「今こそソルネットサンスー創ろう新しい日本の時代」のスローガンのもと、今私たちが取り組んでいる、行革と“新3K”(教育・高齢化社会・国際関係)の問題は、いずれも国家の存亡にかかわる重要なものです。

私たち青年は、地域や国家の活力の源泉であり、責任世代の中核としての自負をもって、これらの問題に立ち向かっていかなければなりません。

私たち一人ひとりが、例え地道でも情熱をもって取り組んでいけば、その一石は必ずや大きな波紋となつて、問題解決への指標となることでしょう。

吹田青年会議所のますますの発展を切に期待いたします。



お祝いとことば

(社)日本青年会議所
近畿地区協議会

会長 浅野 真幸

(社)吹田青年会議所が本年めでたく創立15周年という記念すべき年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴青年会議所におかれましては、昭和45年の創立以来、今日まで数多くの諸先輩方はじめ会員諸兄のご努力により、地域に根づいた素晴らしいJC運動を展開されてきました。

特に今年度は「幸福への挑戦」——豊かな心と生きがい求めて——をスローガンに、来たるべき21世紀に欠くことの出来ない、人と社会の精神的な豊かさを目指して各種事業を推進される意気込みに対し、深く敬意を表したいと存じます。

この15周年を足がかりに、次の大いなる飛躍に向けて今後益々ご発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



お祝いのことば

(社)日本青年会議所
大阪ブロック協議会

会長 立岡 寛次

(社)吹田青年会議所が、めでたく創立15周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴青年会議所が地域社会に根ざした運動を展開され、確かな基盤を築いてこられましたことは青年会議所理念の至上の実践であり、誠に素晴らしいこととあります。

今、私達青年会議所が求められていますものは、真しな態度で未来を見つめることであり、その通過点として、近未来21世紀の豊かな人間社会の実現を目指すことであると考えます。

15周年をステップとして、新たなる「文化都市」吹田を創りだすため、果敢なる行動をおこされますことを心よりご期待申し上げます。



スポンサーJC祝辞
 (社)箕面青年会議所
 理事長 藤井 稔夫

昭和45年9月6日、吹田青年会議所の認認証伝達式
 式典が、MBSミリカホールで挙行されてから早や15
 年の歳月がたちました。

スポンサーJCとして箕面の本宮理事長が挨拶並び
 に経過報告がなされているのをまるで昨日の様に思い
 出されます。

15周年おめでとうございます。

箕面から心よりお祝い申し上げます。

15年間の地域に密着した、又、その特性を生かした
 運動を展開されメンバーも常に切磋琢磨されていること
 に敬服いたします。

親と子の関係を今後も共同事業等をしながらなお一
 層深め、暖めていきたいと思います。

最後に(社)吹田青年会議所のより一層の発展とメン
 バー諸兄のますますの御健勝と御多幸、そしてお仕事
 の繁栄を祈念申し上げます。



お礼のことば
 (社)吹田青年会議所
 15周年実行委員長

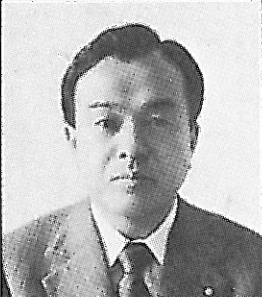
堀田 稔


(社)吹田青年会議所創立15周年記念式典を挙行する
 に当たり、御多忙中にもかかわらずお越し頂きま
 した御来賓の皆様、親愛なる各地青年会議所同志諸兄
 に対し、当青年会議所会員一同心から歓迎申し上げ、
 厚くお礼申し上げます。


本年は創立15周年記念事業として“幸福への挑戦—
 豊かな心と生きがいを求めて”をテーマに、去る5月
 20日、千里北公園におきまして「三世代交流野外フェ
 スティバル」を開催し、次いで6月10日、万博ホール
 におきまして「親と子の心の教育、チャリティコンサ
 ート」を開催致しました。おかげさまで、市民の皆様
 の御賛同を得て、成功裡に無事終えることが出きまし
 た。

本日の式典ならびに記念事業に多大な御指導と御支
 援を頂きました関係団体、各位に対しまして衷心よ
 り厚くお礼申し上げます。今後とも、当青年会議所に
 対しまして一層の御理解と御協力を賜われますようお
 願い申し上げます。


吹田 J C 15 年 の あ ゆ み


	1970 (S45)	スローガン 人類の進歩と調和を目指して
	初代理事長 木村 俊之 (会員数 63名)	


	1971 (S46)	スローガン フレンドシップ、和
	2代理事長 曾呂利昌 弘 (会員数 65名)	


	1972 (S47)	スローガン 明るい豊かな地域社会づくり
	3代理事長 井上 義信 (会員数 72名)	

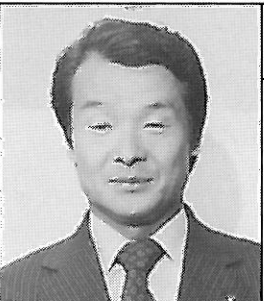
	1973 (S48)	スローガン JC運動は市民のなかで、 連帯
	4代理事長 増田 正明 (会員数 73名)	

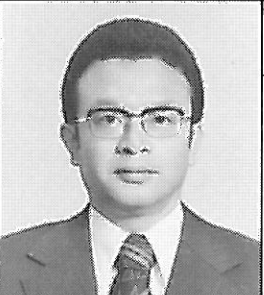
	1974 (S49)	スローガン 見なおそう見きわめよう そして自ら行動しよう
	5代理事長 関山 守洋 (会員数 83名)	

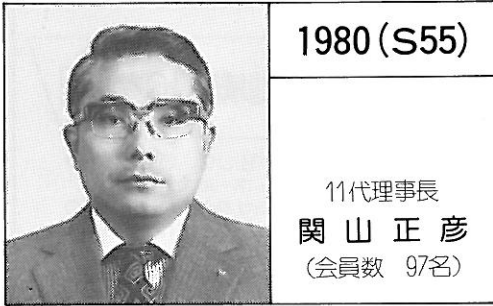
	1975 (S50)	スローガン 挑戦しよう!!今こそ地域にJCを 愛
	6代理事長 井上 暎夫 (会員数 80名)	

	1976 (S51)	スローガン 磨けJAY CEE 活かせJC
	7代理事長 加野 元 (会員数 65名)	

	1977 (S52)	スローガン 考え行動し実現しよう 素晴らしいJC明るい社会 鍛
	8代理事長 藤満 宣夫 (会員数 76名)	

	1978 (S53)	スローガン 広げようJCの輪を 平和
	9代理事長 滝川 紀征 (会員数 73名)	

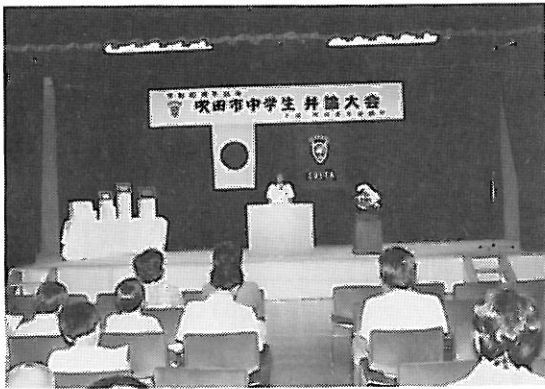
	1979 (S54)	スローガン 躍進と熟成をめざして 10周年
	10代理事長 川上 浩邦 (会員数 95名)	



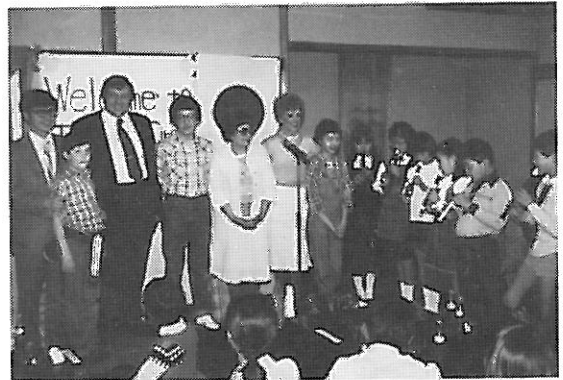
スローガン もっと知ろう人間を、
社会を、世界を

主 な 事 業

- JOC英会話サークル
- 自衛隊体験入隊
- ロックフォードJOC吹田デー
- 外国人懇談会
- 青年の船参加
- 中学生弁論大会
- 史跡ハイキング
- JOC I 世界大会、大阪にて開催



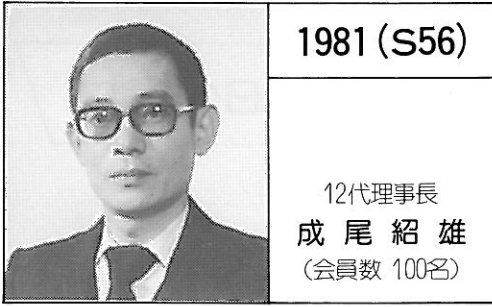
▲中学生弁論大会



▲ロックフォードJOC歓迎会



◀スケート大会



スローガン 考えよう行動しよう明るい吹田を市民と共に

主な事業

- 「社団法人格取得」
- 市政懇談会
- 防衛問題研究会
- チビッコ道場
- LD道場
- 国際井戸端会議
- 青少年文化活動状況調査
- あいさつ運動



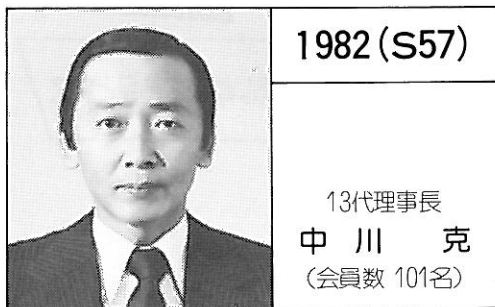
▲チビッコ道場



▲あいさつ運動



▲外国人との家庭教育シンポジウム



スローガン	自立の心、明日への創造
-------	-------------

主 な 事 業

- チャレンジあつまれチビッコ
- ジュニアオリジナルコンサート
- オフィスコンピューター研修会
- 市政懇談会（Ⅰ、Ⅱ）
- アジアコンファレンス（宮崎）参加
- 子供カーニバル
- 国際シンポジウム（留学生を迎え）
- 交通安全運動



▲ジュニアオリジナルコンサート



▲LD道場



▲チャレンジあつまれあつまれチビッコ



1983 (S58)

14代理事長
堀田 稔
(会員数 92名)

スローガン

創ろう心豊かな地域社会

①②③④

- 行政市民会議の調査研究
- 今こそ民間外交を（留学生を迎えて）
- 市政懇談会
- スケート大会
- 21世紀シンポジウム（明日の吹田を創るのはあなた）
- 市民意識調査
- 子供サマーキャンプ（姉妹都市スリランカの子供達と）
- 吹田まつり参加



▲21世紀シンポジウム



◆子供サマーキャンプ



▲今こそ民間外交を！





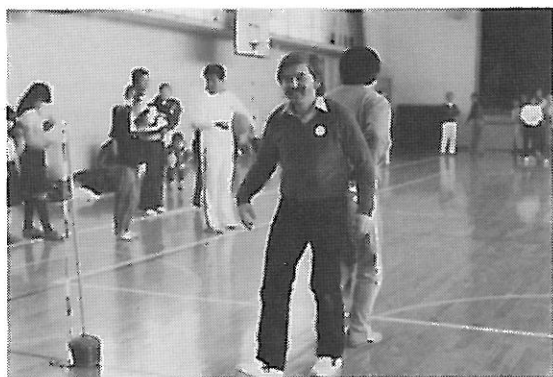
1984 (S59)

15代理事長
安達昌秀
(会員数 100名
をめざして)

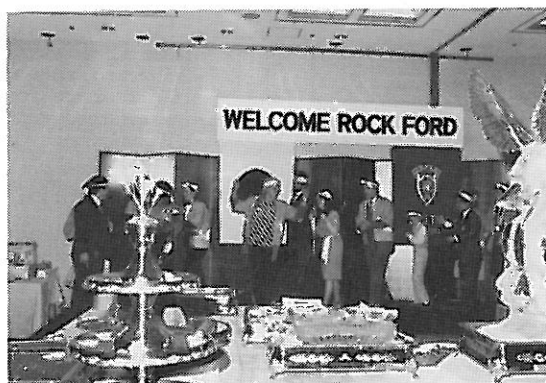
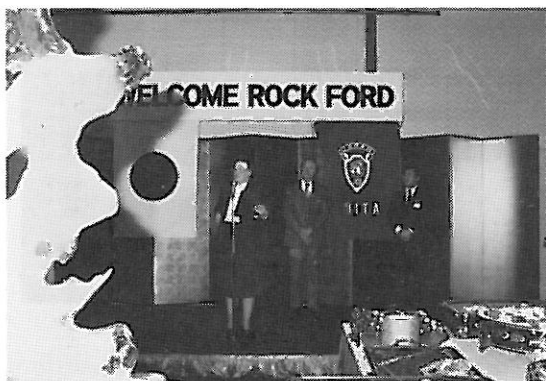
スローガン 幸福への挑戦—豊かな心と生きがいを求めて—

主(な)事(業)

- 国際スポーツ大会 (留学生及在日外国人を迎えて)
- 練成合宿 (伊勢)
- 市政懇談会
- ロックフォード友好協会歓迎吹田デー
- 記念事業パートI 『三世代交流野外フェスティバル』
- 記念事業パートII 『チャリティーコンサート』
- 15周年記念式典
- フリン作戦



▲国際スポーツ大会



▲ロックフォード友好協会
歓迎吹田デー



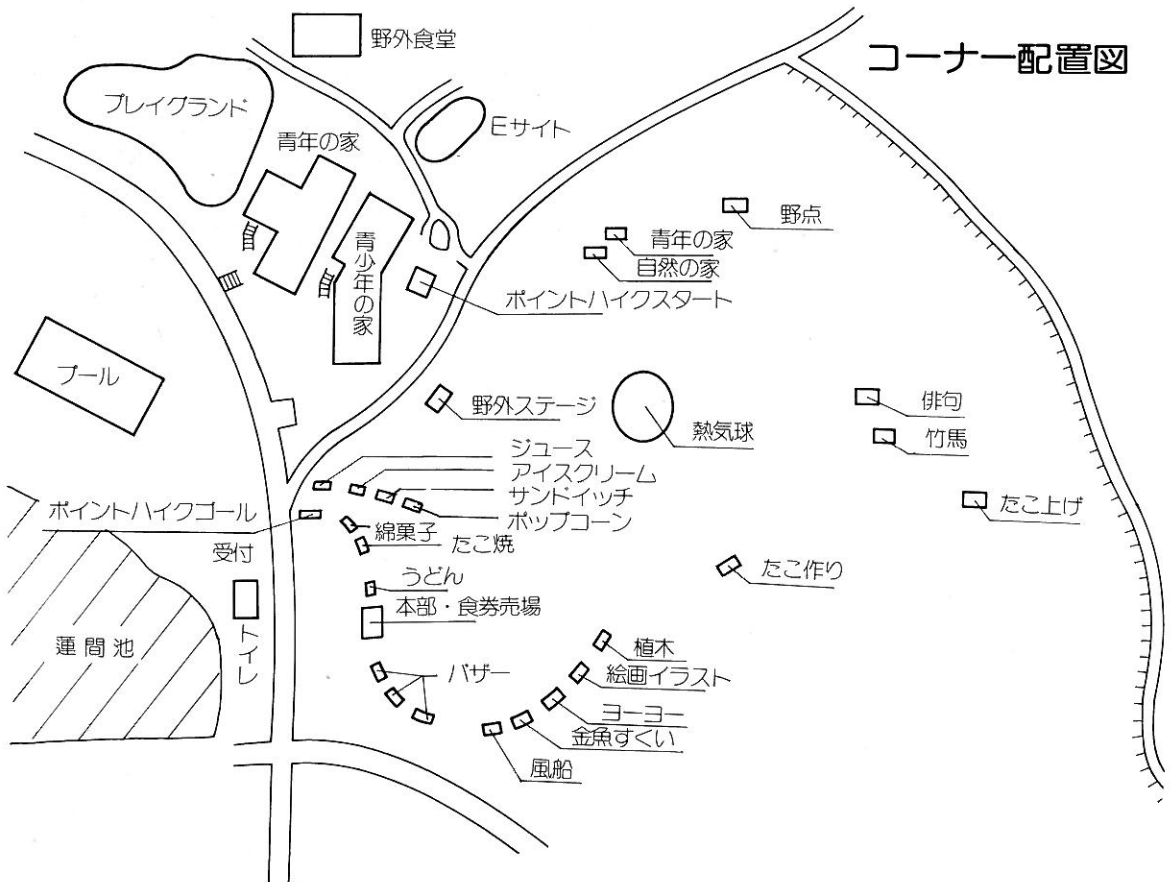
▲市政懇談会

15周年記念事業パートⅠ

S59年5月20日

於 千里北公園

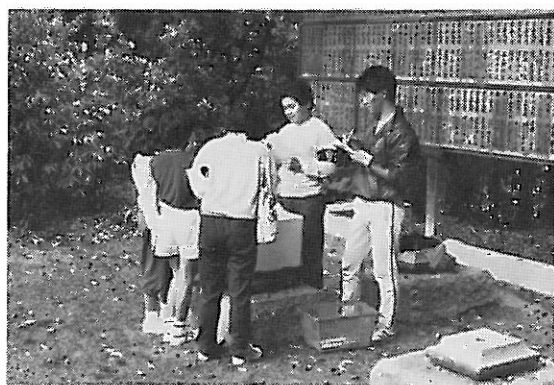
千里北公園配置略図



目で見るとパートI



目で見えるパートⅠ



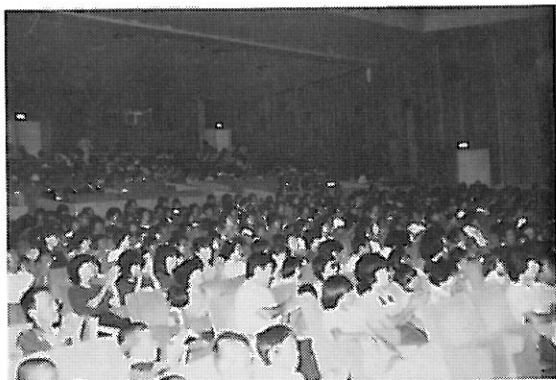
15周年記念事業パートⅡ

1989年6月10日

於 万博ホール

チャリティーコンサート

親と子の心の教育



吹田JC15年の歩み写真展

「心の教育」写真展

- 吹田市立わかたけ園
- 吹田市立杉の子学園

同時開催

(社)吹田青年会議所
創立15周年記念鼎談 “教育” について

出席者 吹田市長 榎原一夫
吹田市教育長 井上孟司
(社)吹田青年会議所 安達昌秀
理事長

司会 吹田青年会議所は、本年創立15周年を迎えました。そこで本日はその記念鼎談として、榎原吹田市長と井上教育長に御出席をお願いし、安達理事長を交えてお話をうかがいたいと存じます。テーマとしましては、本年度日本青年会議所が運動方針の第一に掲げており、吹田青年会議所もここ数年取り上げてまいりました“教育”についてお願いしたいと存じます。



理事長 吹田市が大阪の衛星都市として発展するにつれ、人口増加に追われて学校等の施設面の拡充に随分御苦労されて来たと思います。

市長 千里ニュータウンが出来、吹田市内に国鉄、私鉄合わせて12の駅があり生活の利便性から急速に人口が増加し、それに伴って子供さんの数が増加し多い年は1年に3校位作らなければならない事もありました。財政的な問題などから困難な点もありましたが、我々としては教育というのは学校教育、社会教育も含めて市政の重点施策とし平均して全体予算の30パーセント位は教育に充ててきました。

理事長 現在では如何ですか。これからもまだ学校を増やさなければならないのでしょうか。

市長 教育には学校教育と社会教育があり、今まで

は学校教育に重点を置かざるを得なかったが、ここ一、二年は人口増加は余りないので一部地域を除いては、あと小学校一校と中学校一校を作れば大体いけるのではと思っています。教育の中身は教育長が行い、より良い環境で勉強出来るように施設面で充実させるのは市長の責任においてやることです。なおこれから社会教育により重点をおくようになるでしょう。

理事長 日本の学校教育は世界の国々と比較しても、教育先進国といわれていますが、近年全国的に学校等教育施設の拡充とはうらはらに、その中身としての荒廃が問題になっております。落ちこぼれとか校内暴力につきまして吹田市の学校の現状はいかがなものでしょうか。

教育長 今も市長から話のありました様に施設面では充実して頂いたわけです。今は戦後の教育を受けた者が親になっている時代です。画一的に中間層のレベルを中心に教育をやってきたところにも問題があるのではないのでしょうか。吹田では今までのところ大きく新聞報道される様な問題はありません。ただ個々には色々な小さな日常的な問題はあります。大阪府全体をみても校内暴力は減ってきています。

もっと我々が注意しなくてはいけないのは、表に出ない陰湿な問題です。いじめっ子、異性不純行為、シンナー覚醒剤等の影にかくれた部分を注意しなくてはと思っています。

理事長 現場の先生方もなかなか大変ですね。

教育長 子供の能力に応じた教育をするようにとありますが、先生は生徒を40何人か受け持ち、その中で平均的な教科を教えなければならない。学級経営、行事もしなければならない。PTAの

相手も、学級懇談もしなければならぬ。学校だけがというのではなしに地域社会も家庭も相互に連携していかななくてはなりません。

理事長 学校、地域、家庭の連携が大切だということですね。それにつきましては、子供の教育に関する役割分担をもっと明確にする必要がありますね。

教育長 学校、家庭、地域社会の方々が色々な活動をよくしておられる。学校間差をなくし地元の高校をよくするというのも判りますが一番大切な事は、家庭教育に望む事なのですが、親がそれなりに子供の教育を自分の問題としてとらえる必要があります。冷静な理解と、暖かい愛情とで子供をみつめ、しっかりとだしめ、地面に降ろしてやり一人で歩かせてやる。そういう心がけてないといけません。

理事長 今年、日本青年会議所では学校教育の現状と課題についてのアンケート調査を全国的に行いました。その結果父親がもっと子供の教育に関心を持ち、家庭教育に積極的に参画する必要があります。そしてPTA活動を通じて学校にもどんどん行くべきであるとの分析がなされました。ただ青年会議所メンバーは、休日や夜も会合や活動に出かけて家庭の団らんも少なくなりがちであり立派なことは言えないのですが。現在全国の青年会議所会員のなかで、3,000名近い人達がPTA会長を引受けているそうです。吹田JCでも毎年2,3人おりますが、学校側からみてPTAの機能は十分果されているとお思いですか。

教育長 戦後財政の不足から設備面で親が協力しなくてはいけないということからPTAが発足しています。子供を真中に置いて、親と先生が一緒になって色々やっつけていかなければならないというところから現在につながっています。PTAが学校に対して批判的になったり、対立して話をするのではいけません。学校の監視をしているような所もあります。例えば、子供がいなくなると、先生は捜すために夜中でも走り回っ

ています。そして翌日は教科を教えなければいけないのでその準備もある。なのにPTAから、そんな事件が起きているのに報告もないという事で学校を批判する。このようなかたちではなく、学校でこの様な事が起り、この件についてはこう対処しようと思っている、については地域の方、父兄の方にこういう協力を願いたい、ということにならなければいけません。教師の方も考えなければいけないと思います。PTAはPTAで、色々研修しておられる。その様なことをどんどんやって頂いて、色々な人が色々な考えを出して頂いたら、だんだん良くなるのではないかと思います。

理事長 家庭教育こそが教育の原点ともいわれておりますが、先程申しましたアンケート調査の結果では、学校は子供にとって様々な体験の場となっている。例えば、楽しいとかつらいとかの体験を特に小学生は、家庭や地域社会でよりも学校で多く持つとのこと。ところが中学生になると、より勉学が主になるためでしょうか、学校に対する満足度が低くなっています。その主な原因は、授業の理解不足や教師への不満によるといいます。



榎原吹田市長

市長 教育の中身に余り私として入るのはどうかと思うが、まあ全ての最終的な責任者という立場から発言すると、学校の先生が校長先生を含めて、自分が教えている子供が学校以外で更に塾に通わなければならないという事について、自分達は本当に十分な教育が出来ているのかどうか考えてみなければいけない。私は、子供達が

これ以上自分達の自由な時間に、なお勉強しなければならぬという必要はございませんと、言い切れる先生がおらないのですかと申し上げたことがございます。端的にそう言うだけで済む問題ではありませんが、そこんところを先生方はもう一度考えなおしてほしいと思います。先程家庭教育が教育の原点だというお話がありました。私はそうは思わない。子供の人間形成の原点は学校教育であると思います。最近の子供の非行化とか、落ちこぼれとかいわれているが、しっかりした家庭というものも沢山あるわけで、学校教育、地域における活動、家庭における親のしつけ、こういうことがどの様に係り合っているか参考にし、それを一つの物差しにして落ちこぼれのところは何が欠けているのかと考えることを考えての指導がなされるべきではないかと、私は思います。学校教育に問題があるのであれば、先生がその点を注意してやって頂き、地域活動に問題があるのであれば、地域の方が寄ってそういう問題を討議してもらい、家庭問題があるのであれば、家庭の皆さんが自分の家庭のしつけが十分出来ているかと反省をして頂きたいと思っております。

理事長 現状では家庭や地域社会に比べて、学校の方がむしろ子供の色々な体験の場として、人間形成の場としての機能を果たしているそうです。また、しつけすなわち、道徳教育に関しましては、家庭教育の場だけでなく、特に家庭と学校の協力が必要であると思っております。子供は先生に対して、もっと理解しやすい授業とカウンセラー的対応を求めていると聞いています。

ところで最近私は、“教育改革”と題するあるシンポジウムで、学習塾の利点を積極的に活用せよとの話を聞いたのですが、これにつきましてはいかがでしょうか。

教育長 学習塾の功罪と言うのは色々あります。ただ今後も塾はなくなるのではないかと、という気がするのです。最近新聞で見たのですが、大手の会社が全国ネットワークの塾を今後経営

するようですね。色々と経営の仕方が今までと違うらしいですが、企業がこのように塾をやるということは、儲かるということ。それだけ親の教育に対する熱心さがうかがえる訳です。それだけ学校教育に対する期待も大きい。それに対して応えてゆかなければいけない。それが十分でないから塾に行くのです。やはり学校教育が最終点なので我々はそこから逃げてはいけません。謙虚に受け止めて、だから学校で“教育”をやるのだという意気込みと熱意を、校長始め先生方に持って頂きたいのです。そういう気持ちこそが、子供に何かを訴え、何かを感じさせるのです。人間は、集団の中で人間らしく育つのです。



井上教育長

理事長 我国の学歴偏重の社会、またそれに伴った日本の大学制度にこそ、現在の教育の荒廃の根源があるという人がいます。現在の大学入試制度が、受験戦争を生み、塾へ通う者がある一方で、落ちこぼれによる非行を出す。入試地獄を突破して大学に合格したら、逆にあまり勉強しないで社会に出てゆく。だからアメリカの大学のように、入学はし易く、卒業はうんと厳しくしてよほど勉強しないと出られないようにする。そうすれば自然と受験競争による弊害がなくなり、小学校から高校までのすべての教育が改革されるということですが。

教育長 企業というのは有能な人材を求めているわけで、学歴社会を全く否定してよいものでしょうか。大学制度の問題についてですが、問題は制度だけでなく、やはり中身の問題も大きいと思

うのです。PTAでもJCでもそうだと思うのですが、理論も必要ですが、要はまずやれる事から実行してゆくのが大切です。だから私はいつも、今自分の学校では何が出来るのかを考え、やれることからやりなさいと言っているのです。例えば、あいさつをしましょうという話が出るとしますと、それをすぐ実行に移しなさいと言っています。

理事長 なるほど、改革はまず身近かな事から実行すべきだというわけですね。私の子供の頃と比べてみても、今は昼休みに運動場に出て遊ぶ子供が少なさうですし、また下校後に外で遊ぶ子供も少ないみたいです。

教育長 ある新設高校の入学式に行った時ですが、大きなホールでの式典でしたが、何かしら元気がないのです。入学おめでとうと言っても、ありがとうございますと言う返事もありません。元気がなくモヤシのような感じなので、私は大きな声で話して来たのですが、よほどもっと元気を出せと言いたくなる程でした。はつらつとした子供らしさが必要です。

私も中学校で校長をやっていた時に、子供に言ったのは最後までクラブを続けるという事です。点取り主義になりすぎているくらいがあります。

理事長 教育長におたずねしますが、子供を持つ父兄としての私達に望まれますことは何でしょうか。

教育長 そうですね。親が変わらないと子供も変わりません。又、先生が変わらないと子供も変わらないと言うことではないですか。先程も言いましたように、暖い抱擁力を持って子供を地面に降してやるという原点を親がつかんでほしい。親は子供をしつける義務もあるが権利もあるのです。子供に対してけじめをつけるべきところはつけて頂き、広く色々な会合に出て、色々な人の意見を聞いて、冷静な判断をして下さい。親も本を読み勉強して下さい。教師も子供と一緒に悩み、一緒に勉強してゆく、こういう姿勢が必要ではないですか。



安達理事長

理事長 最後に市長から私共吹田青年会議所に望まれる事をお聞かせ下さい。

市長 今日の試みもそうですが、時代の先端の道を切り拓く役割をされている訳ですから、これからも色々と研究をし、行政にも参画し、お互いの状況の把握の中から計画の実行をしていって頂ければよいのではないのでしょうか。

吹田は将来の北摂の国際文化都市圏の中核都市としてなるべき文化施設が数多くありますし、また、各地区には小さいながらも、地区公民館を作りその地域の中でのお互いの地域文化を育てています。青年会議所の皆さん方は、その基本路線を進める中核として積極的な協力を願っている訳で、これからもそういう姿勢をお願いします。

理事長 本日は、お忙しいところをありがとうございました。ありがとうございました。

21世紀に向けた「我が町吹田」の都市づくり

日本万国博覧会が開催されてから早や14年が経過致しました。当時（S45年）25.7万人であった吹田市の人口は、S59.1月現在、34.3万人を数え21世紀を迎える昭和70年代には、40万人に達すると推定されています。

21世紀まであと16年。その21世紀に向けて地域開発などにより、急激な都市化や人口増加に伴い、地価の高騰・青少年問題・高齢化社会への対応・住宅環境の悪化等、大きな課題となっています。

そこで、私達吹田J.Cは、「我が町吹田」が抱えている諸課題を解決し、心豊かな、住みよい町づくりをするために、今何を考えるべきか、又将来どうするべきかを方向づけるために、市民アンケートを通じた21世紀シンポジウムを開催致しました。ここでは、その要点をご紹介します、21世紀をめざす吹田市の都市づくりを市民の皆様と共に考えたいと思います。

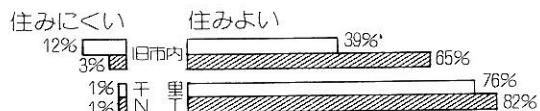
◎西山卯三(京都大学名誉教授)の講演より

- 今日、独立性を保つということから、子供部屋を与えることが一般化しているが、下手をすると、これは孤立につながり非行につながる恐れがある。住まいを考えると、むしろ一家団らんの場合としてのリビングルーム（居間）の活用が重要である。普段着のままで家族が楽しみ、集まって話しをするという生活が極めて大切である。
- 生活様式が家長制家族制度（大家族）から核家族制度に変わり、昔のように兄弟が沢山いた場合、兄弟で集団訓練をやっていたが、現在はそういうことが出来ないため、集団訓練を要する社会施設が必要である。つまり、地域生活を充実させる必要が起こり、人と人のつながりを高めていくことが大切。
- 地域づくりには伝統が必要であり、それを受けついで生活を豊かにしなければならない。現在高齢化社会になってきているが、むしろそれはいいことで老人が積極的に地域活動に参加し、伝統の継承をしてもらうようにすればよいのではないか。
- 町づくりには、人任せでなく、主体的な住民として責任をもつことが必要。町づくりのため、色々なイベントやプロジェクトが出てくる場合でも、住民は、それが本当にいいのかどうかをチェックしなければいい環境は守られない。
- 地域というものは住民のものであり、地道な居住地の環境の改善と壮大な長期展望を比べ合わせながら進めていかねばならない。そして、老人とか奥さんが参加して、どうして自分たちの地区をよくするか話し合うことが大切。

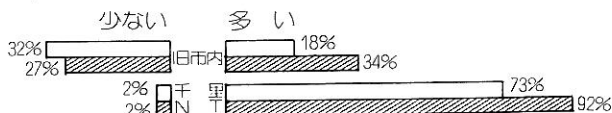
◎今、吹田市民はどう考えているか？（アンケート調査結果）

旧市内 男 133人 女 216人 □ 男
千里NT 男 96人 女 165人 ▨ 女

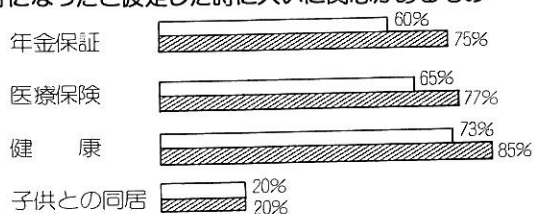
住まいについて



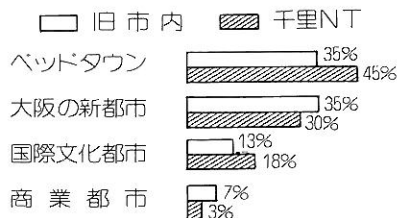
公園や緑



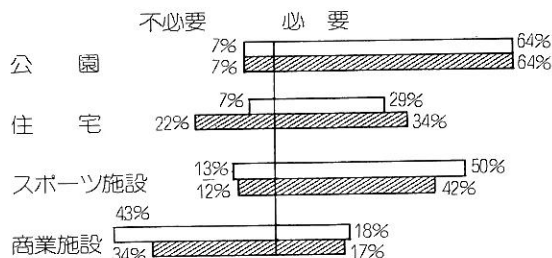
65才になったと仮定した時に大に関心があるもの



21世紀の吹田市のイメージ



操車場跡地利用について



郷土、吹田をどうすればよいか？

国鉄吹田操車場の跡地利用が格差是正のポイント！

国鉄吹田操車場付近は緑被率が12.3%、国鉄南地区で9.3%、阪大・万博を除く千里ニュータウン地区では23.4%と約半分です。したがってここを公園、緑地にすることをまず提案いたします。次にこの公園、緑地に本館機能を持つ図書館の設置を提案いたします。現在吹田市には片山、南千里、北千里、江坂の4市立図書館があります。吹田操車場周辺では片山図書館が最も近い図書館ですが距離が遠すぎます。わたくしたちは「すこやかで心ふれあう文化のまち」を希望するがゆえに以上のような公園緑地化、図書館の設置を望みます。

旧市内と千里ニュータウンの格差是正を！

決してわたくしたちは両地区住民間のあつれきを増幅することはありません。否それどころか同じ吹田市民として等しく幸福を享受するためにも「すこやかで心ふれあう明るいまち」を創っていきたいと考えております。そのためにこそ現実を直視し、そのなかからよりよい解決策を見つけていきたいと思っております。

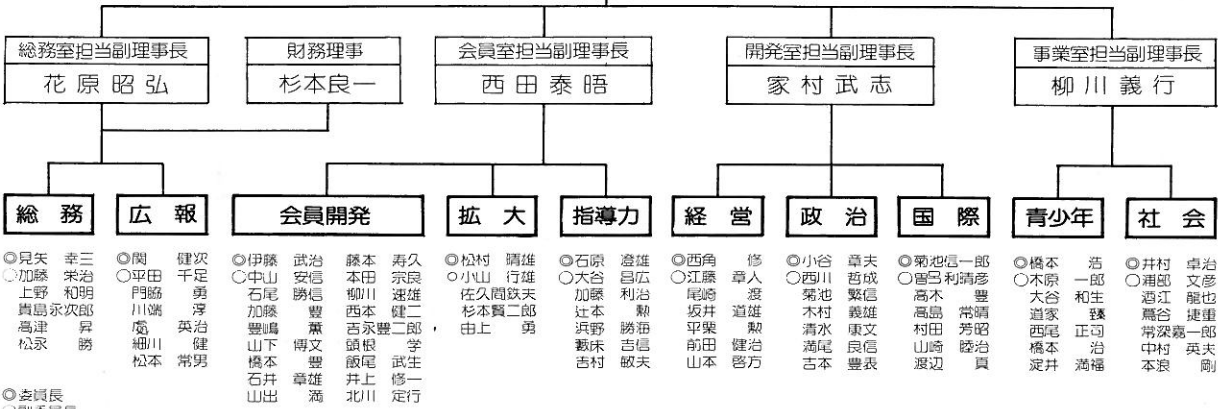
千里ニュータウンと旧市内の住民間の「心のふれあい」が大切！

格差是正と同時に取組まなければならないのは「心のふれあい」です。交流を目的とした交通網の整備が大切でしょう。あるいは吹田全市民が一体となってお祭りをするというようなことはどうでしょうか？ 場所は万博広場がよいかもしれません。その際大切なことはつくられたお祭りを見にいこうといったような取り組みではなく、市民が自主的に参画できるようなお祭りであればならないでしょう。以上は「心がふれあう」機会づくりの方法の一例ですが、「すこやかで心ふれあう文化のまち」づくりのためにすべての市民が知恵と汗を出さなければならないのでは……。

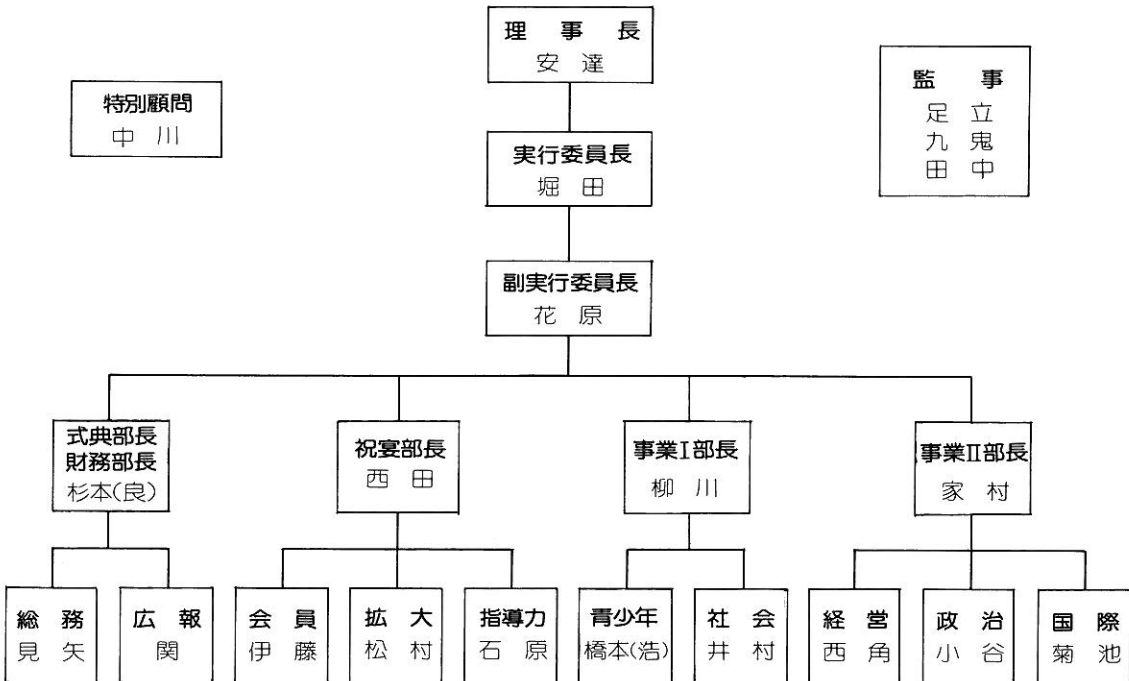
1984年度委員会構成表

出向者一覧表

- 日本青年会議所出向者
- 情報庁特別委員
- 北地城担当副会長
- 地城担当副会長
- 青年少隊副隊長
- 出雲支部副隊長
- 近畿支部副隊長
- 社城担当副会長
- 日本青年会議所大阪ブロック協議会出向者
- 北地城担当副会長
- 国際関係委員会副会長
- 長期事業開発特別委員会副会長
- 広員力副会長
- ア地域担当副会長
- 北地城担当副会長
- 北地城担当副会長



創立15周年記念事業実行委員会組織表



編集後記

この小冊子をつくるに当り、15周年の意義を考えさせられました。基本的には、10周年以後今日迄を重点的に取り上げ、本年のメインテーマ“幸福への挑戦—豊かな心と生きがいを求めて”の教育問題については、市長、教育長、理事長の特別てい談を企画致しました。

記念誌を発刊するにあたり、御協力を賜りました各位並びに先輩諸氏に心から感謝いたします。

編 集

実行委員長 堀田 稔

副実行委員長 花原 昭弘

広報委員会

委員長 関 健次

副委員長 平田 千足

委 員 門脇 勇 川端 淳

處 英 治 細川 健

松本 常男

社団法人 吹田青年会議所

創立15周年記念誌

昭和59年7月1日発行

発 行 (社)吹田青年会議所

〒564 吹田市広芝町10-3

サニーストン・ホテル内

TEL 06-386-1475

印刷所 岡林印刷所